



「最後のポーズ、決まった！」



『合ったね』と、顔を見合わせるA児とB児



リボンの動きを交代で見合う場「わー、きれい！」とB児



「虹みたい！虹にしよう。」とB児『虹』のように動かすことに決定



既成の踊り方をマスターしているA児

CASE 24  
5歳児



「わー、きれいー！」「うー感じー！」

協力園  
別府市立  
朝日幼稚園

（幼児の実態）  
長いスパンで遊んだ『お店ごっこ』を終え、2学期最後の活動である幼稚園のクリスマス会の話し合いをしました。この活動では、それぞれがやってみたい出し物に取り組み、順番に発表し合います。先週、クリスマス会にどんな出し物をしたか、全員で話し合いました。子どもたちは、『劇』『ペープサート』『ハンドベル』『踊り』に取り組み合っています。子どもたちは、クリスマス会を心待ちにしながら、自分たちの発表が上手くいくように、グループの友達や保育者と考えを出し合って、出し物を完成させようとしています。

『踊り』を選んだのは5人。選曲することが難しかったようですが、『恋ダンス』にフラフープとリボン体操も取り入れることで5人の考えがまとまりました。最初、それぞれが踊りを楽しんでいましたが、保育者と話し合いながら曲想をつかみ、どの部分で『リボン体操』フラフープ、『恋ダンス』の踊り』にするかを決めて練習をすることにしました。

話し合いから3日目の朝。みんなで決めた練習開始時刻の9時に保育者がホールに行くと、5人は『サビ』の部分で『恋ダンス』の踊り、『歌』の部分はフラフープ、『間奏など』はリボン体操をそれぞれで練習していました。保育者は自分たちで練習をしていたことを認め、子どもたちを集めると「今日は、どんな練習をするの？」と、尋ねました。子どもたちは自分のめあてを口々に話します。「Aちゃんを見て踊ってるから、見ないで踊る。」と、言った子どもの言葉から保育者は、「Aちゃんを見なくて踊れるようになる」といふ長い針が6になったら、頑張ったところを見せてね。」と、5人に言いました。A児は「ユーチューブを見て練習したもん。私を見て踊ると、キレッキレになるよ！」と、笑いながら答えました。

保育者が別の場所に行くと、5人で練習開始です。曲想をつかんでいるB児が「今度、まわるよ。」とリボンを持って声をかけると、「ここで、いっぱいまわるんだったかな。」と、「私、見ないでやってみよう！」等、自分の気持ちを言葉に出しながら踊っていました。時間になって保育者が戻って来ると「上手くなったね。何か、困ったことがある？」と話しかけました。A児を見ないで踊ろうとしていた子どもが、「フラフープ、どこでするか分からなくなった。」と、自信なさそうに言います。保育者が「その所、もう1回やってみる？ここは、どうするんだったかな？」と、曲を流しながら子どもたちに聞くと、タイミングを図りながら、「ここ、すぐ、フラフープ。」と、言葉で伝えていきます。『歌』のフラフープが終わると、『間奏』のリボン体操になり、5人がリボンを持って集まってきました。自信なさそうに話した子どもは、「分かった。みんなであまわるの、遅れないかもしれない。」と、タイミングがつかめたようです。

今度は、保育者が「5人が1列になった時、リボンがきれいに見えたよ。最後は、1列に並んでリボンを動かすのはどう？」と、提案します。子どもたちは、その場でリボンを動かしてみました。B児が「虹みたい！虹みたいにしよう。」と言います。A児は、「虹でいいけど、水色のリボンは、下で湖みたいに動かしたらいいんじゃないかな。」と、付け加えて言いました。保育者から考えを促された他のメンバー3人は「虹がいい。」と、答えます。すると、A児は「うん、湖もいいけど。ああ、いいや。」と、自分の考えを取り下げ、5人で虹をつくることにしました。

みんなの気持ちが揃うと、「1列に並ぼう。」と、みんなが見える方がいい。背の順にしよう。」と、「はい、Aちゃんこっちに来て。背比べ。」と、「この、順番がいい。」とB児がリードして並びました。5人は並ぶと、リボンが大きくなびくように精一杯腕を伸ばして動かします。保育者は「きれいだよ！」と言いつつ、自分たちの表現を見ることができるよう、順番に虹を見ることを提案しました。初めにB児が4人の虹を見ると即座に「わー、きれい！」と、歓声を上げました。続いてA児も「いい感じ！」と、納得の虹になりました。最後のリボン体操の虹が上手くいったところで最初から踊ります。サビの部分は、A児の得意な踊りです。そこでB児と動きが合った瞬間、2人は顔を見合わせました。次は虹の部分、そして最後は、リボンを高く揚げてポーズを決めました。

振り返りの時間に、『踊り』を他のグループの友達に見てもらおうと、「きれい！本物の虹みたい！」と拍手が起こり、5人は飛び上がって喜び合いました。

子どもたちは、保育者との関わりを通して、友達の良さを感じながら、共感したり、折り合いを付けたりして、自分たちの目的に向かって力を合わせる楽しさや充実感や達成感を味わっていました。3学期には、自分たちで生活発表会を成功させたいと、友達同士で表現し合う過程を楽しみ、表現する喜びを味わいながら、自信をもって様々な活動に取り組んでいくと思われれます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿  
「10の姿」

- 自立心
- 言葉による伝え合い
- 健康な心と体
- 協同性
- 豊かな感性と表現

友達と関わる中で、互いの思いや考えを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

事例から見られる10の育ち  
協同性  
A児は、教えてもらいながら楽しく踊る友達や、思いを言葉で伝えみんなで一緒に踊ろうとする友達と遊ぶことで、つくり出す楽しさを感じていったと思われる。B児と動きが合った瞬間、心地よさを感じ、見てくれた友達から認められ、『踊り』を5人で成功させたという、共通の目的が達成した充実感を味わう経験となった。子どもは、『お店ごっこ』や『クリスマス会』のように、グループで遊ぶ活動を体験する中で、友達との関わりを深めていきながら、楽しい・嬉しいなどの感情体験を味わい、目的の実現に向け工夫したり、協力したりしてやり遂げようとする姿になっていくようだ。

事例から見られる10の育ち  
豊かな感性と表現  
A児は、振り付けを完璧に覚えて踊ること、友達が自分を見て踊っていることに心地よさを感じていたようだ。虹を「きれい！」と言葉で伝えるB児の関わりや、虹のように動く様子を実際に見て共感したこと、友達と表現することの楽しさを体験していった。友達と表現したことを保育者や他のグループの友達から認められ、気持ちを合わせて表現する喜びを味わったと考える。A児は踊りを成功させたい思いから、個の表現や、友達同士で表現し合うことを楽しめた。この経験が、感性を働かせ、表現を楽しむ姿につながっていくと思われる。

保育者の援助・環境構成のポイント

- 共通の目的を実現するための援助  
曲のイメージがわくように、グループで曲想をつかめるような場を設定。  
子どもの願いや考えを受け止め、困りを解決できるような練習方法や新しい踊り方の提案。  
自分たちで決めた方法でやっていることを認める言葉かけ。
- 気持ちや考えを言葉で伝え合えるような声かけ  
困っていることを聞いたり、考えたことを言葉で伝え合ったりする場の設定。
- 友達の良さを感じ合える場  
表現を見合い、感じたことを伝え合える場の設定。